

社会技術研究開発事業

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）」

2021年度採択プロジェクトの本格研究開発期間への移行について

社会技術研究開発事業「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）」において、2021年度採択プロジェクトのうち本格研究開発期間への移行を希望するプロジェクトについてステージゲート評価を行い、本格研究開発期間支援対象のプロジェクトを次のとおり決定しました。

プロジェクト名	研究代表者
地域とつくる「どこでもドア」型ハイブリッド・ケアネットワーク	近藤 尚己 （京都大学 大学院医学研究科 教授）
社会的孤立の生成プロセス解明と介入法開発：健康な「個立」を目指して	太刀川 弘和 （筑波大学 医学医療系 教授）
職場における孤独・孤立化過程の分析—総合的予防プログラムの開発に向けて—	松井 豊 （筑波大学 働く人への心理支援開発研究センター 研究員／筑波大学 名誉教授）
演劇的手法を用いた共感性あるコミュニティの醸成による孤立・孤独防止事業	虫明 元 （東北大学 大学院医学系研究科 教授）
新生活に伴う孤独リスクの可視化と一次予防	柳澤 邦昭 （神戸大学 大学院人文学研究科 講師）
すべての子どもの社会的孤立・孤独・排除を予防する学校を中心としたシステムの開発	山野 則子 （大阪公立大学 大学院現代システム科学研究科 教授）

（所属機関・役職は移行決定時点、五十音順に掲載）

<ステージゲート評価について>

本プログラムでは、2021年度採択プロジェクトについては、スモールスタート（可能性検証）研究開発開始後1年程度を目処にステージゲート評価を実施します。ステージゲート評価では、研究開発プロジェクトの目標達成に向けた隘路解消のための対応及びその後の実現可能性を評価し、研究開発プロジェクトの継続が妥当と判断されたプロジェクトは、実施内容及び実施体制の適正化を行った上で、原則3年間の本格研究開発を行います。

ステージゲート評価基準は以下のとおりです。

【ステージゲート評価基準】

(a. ~c. の項目に基づいて総合的に評価します)

a. 研究開発の進捗状況について

- ・スモールスタート期間における研究開発成果が着実に出てきているか。
- ・スモールスタート期間における研究開発成果により、研究側と施策現場側それぞれのニーズや課題の相互理解に基づき、公募要領「3.3 研究開発対象」の研究開発要素「①社会的孤立・孤独メカニズム理解と、社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出」「②社会的孤立・孤独リスクの可視化と評価手法（指標等）の開発」「③社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み」の一体的推進とPoC実施までの計画が整理されているか。
- ・プロジェクト内のチーム間やプロジェクト間の統合・再編があった場合、その効果と計画について整理されているか。

b. 研究開発体制について

- ・公募要領「3.3 研究開発対象」の研究開発要素①②③を一体的に推進するために、人文・社会科学や自然科学の研究者並びに施策現場など社会の多様な関与者による十分な連携体制が構築されているか。
- ・PoC実施のために、開発した社会的孤立・孤独の予防施策等の効果を、国内の特定地域、学校、職場、コミュニティなどの施策現場で実証できる仕組みができてきているか。

c. 研究開発成果のインパクトについて

- ・研究開発成果が将来もたらすインパクト（学術的・公共的価値の創出、現在及び将来の社会・産業ニーズへの貢献、国内外の他の分野・地域への波及・展開など）が描出されているか。

以上